

MASHIKO MUSEUM OF CERAMIC ART

益子陶芸美術館

2024年度
[企画展案内]

回覧

■ 笹島喜平館

益子出身の木版画家 笹島喜平の作品を展示しています。笹島は棟方志功に師事し、やがて版画の表面に凸凹が残る“拓刷り”という技法を生み出しました。



■ 旧濱田庄司邸

濱田庄司が実際に住んでいた茅葺の邸宅を移築し公開しています。町文化財。



■ 登り窯

濱田庄司が生前に愛用していた登り窯を移築復元しました。



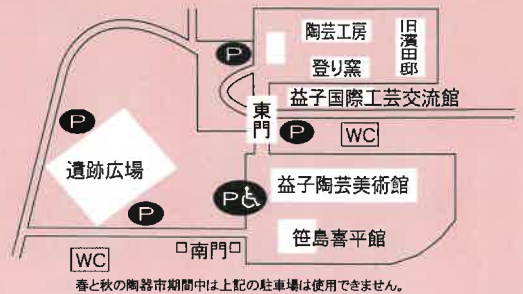
■ サロン(ミュージアムショップ)

お好きな益子焼のコーヒーカップを選び、挽きたてのコーヒーをお召し上がりください。
*入館無料



■ 益子国際工芸交流館

[Mashiko Arts & Crafts Residence]
世界各国の代表作家や若手作家の交流事業を開催し、作品創作や人材育成など学びと交流に繋がる施設。



■ 開館時間

9:30~17:00 (2月から11月) ※入館は16:30まで
9:30~16:30 (12月から1月) ※入館は16:00まで

■ 休館日

月曜日(祝休日の場合は翌日)
但し、4月30日(火)、11月5日(火)は開館
5月7日(火)、11月6日(水)は休館
年末年始休館 12月26日(木)~2025年1月2日(木)
*他に展示替えによる臨時休館があります

■ 入館料

益子陶芸美術館、笹島喜平館 共通
[一般] 600円(550円)
[小中学生] 300円(250円) ※()内は20名以上の団体料金
[65歳以上] 300円 ※個人団体共に
(受付にて年齢確認出来るものをご提示下さい)
入館無料: サロン(ミュージアムショップ)、ミニギャラリー、旧濱田庄司邸、登り窯
入館無料日: 6月15日(土) 栃木県民の日

■ 交通案内

【バス】東武宇都宮駅、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東自動車バス 益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」 笠間・益子行、陶芸メッセ入口下車徒歩2分
【JR】小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車 徒歩25分
【自動車】常磐道友部JCT経由、北関東道桜川筑西ICから20分
東北道栃木都賀JCT経由、北関東道真岡ICから25分



益子陶芸美術館

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021
TEL.0285-72-7555 FAX.0285-72-7600
<http://www.mashiko-museum.jp/>

■企画展

2024

4月

展示替えのため休館 4月8日(月)～4月20日(土)

4月21日(日)～6月16日(日)

竹耕藝 勝城蒼鳳 —那須野が原に生きて—

Bamboo art Soho Katsushiro : Lived in Nasunogahara

森羅万象の美を竹工芸へ映し出す詩情豊かな作風で知られ、昨年1月に逝去した栃木県大田原市の竹工芸家、勝城蒼鳳(1934～2023)の作品を紹介します。勝城は自らが目にした自然の景色を自由自在に竹で表現し、2005年には重要無形文化財「竹工芸」保持者に認定されました。半農半工を生業続け、大田原の大地で育まれた竹を用いて創作した作品の数々をお楽しみください。

2階展示室 スポットライト: 出和絵理 新たな磁土の表現

Eri Dewa: Possibilities for new expressions of porcelain clay

石川県で作陶する出和絵理は、光が透けるほど薄くのばした白い磁土を焼成し、放射線状に組み合わせる方法で作品を制作しています。磁器の透ける特性に着目した出和絵理の世界を紹介します。

展示替えのため休館 6月17日(月)～6月29日(土)

6月30日(日)～9月23日(月・振休)

英国ロンドン派

London School

欧州の中で陶芸大国として名高いイギリス。なかでも首都ロンドンでは多くの陶芸家が活躍し、人気を博しています。オーストリア出身のルーシー・リー(1902～1995)やドイツ出身のハンス・コパー(1920～1982)などからはじまり、現在では、ジュリアン・ステア(1955～)やジェリファー・リー(1956～)といった活躍中の陶芸家も数多くいます。

当館コレクションの核のひとつでもあるイギリス陶芸作品をロンドンに焦点を絞り、今回新たに「ロンドン派」と名づけ、紹介します。

6月30日(日)～8月25日(日)

2階展示室 スポットライト: 高橋朋子 —金銀彩 再考—

Tomoko Takahashi

金銀彩で装飾を施した焼物は江戸時代からみられます。最近では多くの陶芸家が金銀彩の装飾を用いています。本展では高橋朋子の作品を通して金銀彩の在り方を再考し、作品の魅力に迫ります。

9月3日(火)～11月5日(火)

2階展示室 スポットライト: 林康夫 —浪江に捧ぐ—

Yasuo Hayashi

前衛陶芸家集団である四耕会に所属し、1948年に用途に捉われない立体造形作品「雲」を発表した林康夫(1928～)の現在。東日本大震災で被災した、福島県浪江町の廃屋をモチーフとした作品を紹介します。

展示替えのため休館 9月24日(火)～10月5日(土)

10月6日(日)～2025年1月13日(月・祝)

静と動 濱田晋作・濱田庄司

Quitness and Dynamic: Shinsaku Hamada & Shoji Hamada

益子を代表する陶芸家の一人、濱田晋作(1929～2023)は昨年7月に惜しまれながら逝去しました。晋作は陶芸家濱田庄司の次男として生まれ、父を生業支えながら作陶しました。父・庄司(1894～1978)は今年生誕130年を迎えます。静謐な晋作作品と躍動的な庄司作品、同じ土と釉薬を用いながらも対照的な二人の作品をお楽しみください。

11月12日(火)～1月13日(月・祝)

2階展示室 スポットライト: 陰翳礼讃

In praise of shadows

時として陶芸は光の作る陰によって表情を大きく変えることがあります。本展示では、陰によってもたらされる豊かな表情を紹介します。

10月20日(日)～11月24日(日)

<笹島喜平館>日本拓版画会展2024

Japan Takuhanga Print Society Exhibition 2024

日本拓版画会のメンバーによる拓刷木版画の世界を紹介します。

展示替えのため休館 1月14日(火)～1月25日(土)

1月26日(日)～4月6日(日)

高内秀剛

Shugo Takauchi

高内秀剛は益子で黄瀬戸や織部に取り組んでいます。火焰型土器を彷彿とさせる文様や豪快な造形をお楽しみください。

2階展示室 スポットライト: 五味謙二

Kenji Gomi

五味謙二の陶芸は二つの造形が重なり合うことで生み出されています。生の土が持つ柔らかさと、質量感を感じさせる陶芸を制作しています。近年、二つの造形の関わりに拘る五味謙二の作品を紹介します。

※ 展覧会およびスケジュールは変更になる場合があります。



勝城蒼鳳《根曲竹摺漆花籃『颯然』》
2016年 国立工芸館蔵



出和絵理《Forest1》2023年



ジェリファー・リー《淡色、斑点のあるオリグ色の帯、斑点のあるオリグ色の層》
2019年 益子陶芸美術館蔵



高橋朋子《翠光彩水指 翠器》
2022年



林康夫



濱田晋作《柿粒鉄絵花瓶》
2000年頃 益子陶芸美術館蔵



高内秀剛《織部手箱》
益子陶芸美術館蔵



五味謙二《shi-tou『モモ』》
2023年